

福井県鯖江市 SDGs未来都市計画

持続可能なめがねのまちさばえ
～女性が輝くまち～

福井県鯖江市

< 目次 >

1 全体計画

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態.....	2
(2) 2030年のあるべき姿.....	6
(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	8

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....	10
(2) 情報発信.....	13
(3) 普及展開策.....	14

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映.....	15
(2) 行政体内部の執行体制.....	16
(3) ステークホルダーとの連携.....	18

1.4 地方創生・地域活性化への貢献

2 自治体SDGsモデル事業

(1) 課題・目標設定と取組の概要.....	21
(2) 三側面の取組.....	23
(3) 三側面をつなぐ統合的取組.....	29
(4) 多様なステークホルダーとの連携.....	35
(5) 自律的好循環.....	36
(6) 普及展開策.....	37
(7) スケジュール.....	38

1. 全体計画

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

①地域特性

・ものづくりのまち

眼鏡フレームの国内生産シェア 9 割以上を占める眼鏡産業、繊維王国福井の中核を担ってきた繊維産業、1500 年余の歴史を有し、国内の業務用漆器の約 8 割の生産シェアを占める漆器産業の三大地場産業を核としたものづくりのまちである。近年では、長年にわたる眼鏡フレームの開発・製造を通じて、チタンに代表される難加工材の精密加工技術が集積する地域において、これらの技術優位性を活かした医療やウェアラブル情報端末などの成長分野へ挑戦する企業が多く見られる。

・人口が増えているまち

1955 年の市制施行以来、人口は増え続け、2019 年 1 月 1 日現在、市制最高値 69,469 人を記録した。福井県の中心に位置しており、鉄道や国道が南北に縦断するなど交通便利性が高いという優位性から、県内の近隣市町からの若者の転入が多い。

・学生連携によるまちづくり

鯖江市の学生連携によるまちづくりのスタートは、2004 年の福井豪雨をきっかけに始まった京都精華大学との連携による「河和田アートキャンプ」(※解説 1)である。その後、大学のない鯖江市において、地域課題の解決のため、明治大学、慶應義塾大学、津田塾大学、電気通信大学などさまざまな大学と新商品開発やまちづくりの分野において連携するとともに、大学生から提案される事業は何らかの形で具現化している。

その具現化された事業の一つである「鯖江市役所 JK 課」(※解説 2)や「地域活性化プランコンテスト」(※解説 3)は、近年では全国で横展開するとともに、様々な賞を受賞するなど、全国から注目されている。

・市民協働によるまちづくり

延べ 3 万人の市民がボランティアとして参加した、1995 年開催の世界体操選手権大会の成功が市民への自信につながったことで、市民のまちづくりへの参画が盛んになった。

その後、市民提案により「鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例」(※解説 4)や「鯖江市民主役条例」(※解説 5)が策定され、「市民主役のまちづくり」(※解説 6)や「オープンデータによる IT のまちづくり」(※解説 7)が推進されるなど、市民協働によるまちづくりを全国に先駆けて行ってきた。

・女性が輝くまち

福井県の女性の就業率・労働力率・共働き率は全国 1 位であり、特に、20 代から 40 代

前半にかけての女性の就業率は女性活躍先進国であるスウェーデンを上回っており、鯖江市は県内トップの就業率を誇っている。

鯖江市は、女性が社会に進出し活躍している割合が高く、具体的な取組みとしては、女子高校生が若い感性で楽しみながら地域と関わろうとする「鯖江市役所 JK 課」や「鯖江市 OC(おばちゃん)課」(※解説 8)など、幅広い世代の女性が活躍している。特に、「鯖江市役所 JK 課」は、昨年 5 月に開催された「2018 国連ニューヨーク本部 SDGs 推進会議」において高い評価を受けるとともに、その会議で使用したメイドインサバエ「グローバル」(※解説 9)も好評であったため、現在、商標登録の手続きを進めるとともに、SDGsの啓発等に活用している。

・鯖江モデル教育・高齢者の生涯学習

福井県は、新学習指導要領における英語の教科化やプログラミング教育の必修化を見越し、全国に先駆けて取組みを進める中、鯖江市においても、外国人講師の英会話による授業を実施したり、すべての小中学校でプログラミングクラブを開設したりするなど、将来を見据えた人材育成に積極的に取り組んでいる。

また、鯖江市では、すべての小学校に「こどもエコクラブ」が開設され、環境に対する意識の更なる向上と環境保全活動の推進を図るとともに、国連が定めた SDGs を理解する学習を取り入れ、身近なところから考えるきっかけづくりを進めている。

高齢者の生涯学習について、全国的に稀有な高齢者の生涯学習施設である「高年大学」(※解説 10)において、受講生の自主的運営を基本としたユニークで特色あるカリキュラムやクラブ活動等を展開している。

②今後取り組む課題

・地場産業の縮小

内需の多様化、市場経済のグローバル化、産地間競争の激化等の影響により、ピーク時と比べ、産地全体の事業所は半減、従事者・出荷額は約 4 割減少しているため、従来の OEM 中心である「作る産地」から地域ブランドの確立による「作って売る産地」への転換によって地域全体の収益性の向上を図るとともに、地場産業で培った高度な加工技術を活かし、成長分野への参入を目指す必要がある。

・地場産業や地域活動の担い手不足

現在人口が増えているものの、若者を中心とした県外への転出超過に伴う社会減や少子高齢化に伴う自然減が進んでおり、国立社会保障・人口問題研究所が 2018 年 4 月に発表した推計によると、鯖江市の人口は 2020 年の 68,669 人をピークに減少し、特に若年層の人口減が深刻となるため、地場産業や地域活動の担い手不足が懸念される。

また、福井県の有効求人倍率は、2.05(2019 年 5 月現在)で全国 3 位と非常に高いが、鯖江市の求人はサービスや生産工程の職業が多い一方で、求職は事務的職業の人気が高いため、雇用のミスマッチを解消する必要がある。

・地域公共交通の再編

自家用車の利用が増加し、地域公共交通機関の利用が減少する中、公的支援がなければ、地域公共交通機関の維持が困難な状況になっている。そのような中、2023年春には北陸新幹線敦賀開業および冠山峠道路の完成、その4年後の2027年にはリニア中央新幹線が名古屋まで開通するなど、高速交通ネットワークの整備がもたらす大きな変革の時代を迎えるが、新幹線の駅がない鯖江市では、これらを見据えたまちづくりが必要であり、北陸新幹線福井駅と福井鉄道福武線・つつじバスとの連携やシェアリングエコノミー等を活用した新たな高齢者の移動手段を研究するなど、利便性の高い交通網の確保が求められる。

・空き家の増加

近年の少子高齢化や人口減少、経済状況の変化を背景に、鯖江市においても、2015年度に実施した実態調査によれば、市内に700件以上の空き家が存在し、空き家の増加が深刻化している。特に、長年利用されずに放置された空き家は、倒壊事故やゴミの悪臭、害虫・獣害発生、さらには人の目がつきにくい空き家での不審者による放火や空き巣など、周辺住民の生活環境に悪影響を及ぼすとともに、治安悪化にも繋がっている。

・女性活躍への障害

2015年国勢調査によれば、鯖江市の女性就業率は62.1%となり、全国トップの県内でも1位である一方、鯖江市の企業における女性の管理的職業従事者率は13.8%となり、全国平均の16.4%に比べて低く、鯖江市の町内会長は2人、市議会議員は1人であり、地域の代表者に占める女性の割合は低い現状にある。

また、現在、県内の近隣市町から、25歳から39歳までの子育て世代が多く転入してきており、今後、待機児童の発生が危惧される。

【解説】

※1 河和田アートキャンプ

大学生を鯖江市河和田地区に受け入れ、河和田地区内の豊かな地域資源である地場産業や自然環境を活用したアートの事業を展開することで、河和田地区の活性化を図る。2005年から現在まで14回実施され、河和田地区における夏の風物詩となっている。

※2 鯖江市役所 JK 課

鯖江市において、若い世代である高校生、特に女子生徒のまちづくりへの参画が脆弱であることに鑑み、女子高校生によるまちづくりチームを結成。自らが企画した地域活動に大人や地域を巻き込みながら実践することを通じ、若者および女性が進んで行政参加を図っていくモデル構築を目的とする。2014年に13人でスタートした鯖江市役所 JK 課は、2019年には45人となる。

※3 地域活性化プランコンテスト

「市長になりませんか？」をキャッチフレーズに、全国の学生が鯖江市を良くするための

プランを考え、プレゼンテーションを行う。鯖江市ではすでに 11 回開催されるとともに、全国でも同様の地域活性化プランコンテストが実施される。

※4 鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例

市民、市民団体、事業者、行政が対等の立場で連携、協働しながら、地域が求める新しい公共サービスを創り出し、市民が主役で活力にあふれた元気さばえを実現するために、2013 年に制定。

※5 鯖江市民主役条例

自分たちのまちは自分たちがつくるという市民主役のまちづくりを進めることを目的として、市民による市民のための条例が 2010 年に制定。

※6 市民主役のまちづくり

鯖江市民主役条例の推進に向けて、市民団体「鯖江市民主役条例推進委員会(市民参画部会、地域自治部会、さばえブランド部会、若者部会)」が立ち上がった結果、提案型市民主役事業(市が実施する事業の中から、市民の提案により、新しい公共の担い手として市民自らが行ったほうが良い事業を市民主役事業として実施する制度)や市民まちづくり応援団事業(人材の掘り起こしや、持続可能な地域運営の基盤づくり、人と人をつなげるコーディネートに興味のある人材を発掘し、人材育成を図る事業)などが事業化された。

※7 オープンデータによる IT のまちづくり

市民主役のまちづくりを推進する上で、市民との情報共有が不可欠だと考え、鯖江市に保有するデータのオープンデータ化を 2010 年から始め、現在では、公開データが約 200 種類と、そのデータにより民間が作成したアプリが約 250 種類となる。

※8 鯖江市 OC(おばちゃん)課

「鯖江市役所 JK 課」に触発されて、市内在住の女性達により 2014 年に結成。これまでに西山公園多目的トイレの改善提言や、全国 OC サミット in 鯖江の開催など、女性目線で地域の課題を検証し実践している。

※9 メイドインサバエ「グローカル」

SDGs をより多くの人々に知ってもらうためにコンセプトメガネとしてメイドインサバエ「グローカル」を作成。このメガネのデザインは、SDGs の 17 目標を左右各 8 目標に分け、これらの目標をつなぐブリッジは目標 5 の「ジェンダー平等実現」であった。このメガネのコンセプトは、一つのレンズで世界の動きを捉え、そしてもう一つのレンズで地域を考え行動する、「Think globally! Act locally!」である。



※10 高年大学

鯖江市在住で 60 歳以上の高齢者が、多種多様なカリキュラムを受講するとともに、地域社会活動に積極的に参加し、より豊かで充実した社会生活を営むために作られた、全国的にも稀有な高齢者の生涯学習施設である。この施設は、1979 年に開学し、昨年で 40 年を迎えた。

(2) 2030年のあるべき姿

鯖江市固有の資源を最大限に活用することにより、地域のブランド力が高まり、魅力ある雇用が生まれ、若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりが実現される。

また、今後も鯖江市が将来にわたって成長力を確保できるよう、経済界や市民、大学等が協働で経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組んでおり、特に、女性がすべての分野において重要な役割を担い、持続可能な地域社会の構築に貢献している。

① 魅力ある雇用の場の創出

・眼鏡のチタン加工技術を活かした新産業の創造

医療やウェアラブル情報端末関連等の成長分野に進出し、技術開発や新たな販路開拓を果たす。

・既存産業の高度化

企業マッチングを進めながら、販売力の強化や産学官連携による新素材・新技術・新商品の研究開発、農商工連携による新たな加工品の開発・販路開拓などがなされ、「作るだけの産地」から、自ら開発・製品化して販売する「作って売る産地」になる。

・若者に魅力ある働く場の確保

医療やウェアラブル情報端末関連等の成長分野に進出し、次世代を拓く企業の育成、サテライトオフィスの誘致などにより、地域産業のイメージアップを図り、若者や女性の地元企業への就職が進む。

・女性が輝くまちの創造

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進に取り組む企業が増えるなど、女性が仕事と子育てを両立できるような環境が整い、家庭や地域生活等の私生活を充実できるよう多様な働き方が実現している。

② 若者が住みたくなるまちの創造

・若者の夢を応援するまち～よそ者に寛大で多様性があるまち～

学生等の若者による創造力を市政に活用する学生連携事業を通じて、若者がものづくりに惹かれて鯖江市に定住し、住みたくなる・住み続けたくなるまちとなる。

・オープンデータとITで都会的サービスが享受できるまち

「ITのまち鯖江」として近未来のインフラであるオープンデータ(データシティ鯖江)の推進に取り組んできたが、更なる積極的な情報公開や市民を対象としたアプリ等の講習会などを通じて、市民の誰もがITの恩恵を受け、より豊かな生活を享受できるような電子自治体となる。

・参加と協働による市民主役

市民と協働のまちづくりを目指した「市民主役条例」に基づき、市民がふるさとに愛着や誇りを持ち、自らが市政に直接的に広く参画するような、市民主役、全員参加の活気あるまちとなる。

・地域資源を活かす観光の推進

西山公園や道の駅一帯の自然環境や眼鏡・繊維・漆器に代表される「ものづくり」産業などを地域資源と捉え、丹南地域(鯖江市、越前市、越前町等の隣接2市3町)や県内外との広域連携も視野に入れた、インバウンド消費にも対応できる産業観光が整う。また、観光プランの整備や情報発信の充実が進み、まち歩きができるような特色ある観光が整う。

③ 若くて元気なまちの創造

・安心して結婚・出産・子育てができるまち

子育ての喜びが実感できるとともに、安心して子育てができるよう、妊娠期から学齢期まで切れ目のない子育て環境となる。また、若者の出会いや交流の場づくりなど、素敵な出会いができる環境づくりが進む。

・学力・体力日本一のまち

プログラミング教育や英語教育の推進による将来を見据えた人材の育成、IT機器を活用したわかりやすい授業による基礎学力の定着、読書活動の推進による豊かな情操の育成、スポーツ環境の充実による体育好きの子どもたちの育成により、健康な心身の育成が進むとともに、豊かな心、たくましい体を育む環境づくりが進む。

・生涯現役で生涯青春のまち

誰もが生涯にわたり、健やかで自立した生活を送りながら、目的を持っていきいきと活動し、長寿による豊かさを実感できるよう、様々な場面で高齢者が活躍できる環境づくりが進む。特に、全国的に稀有な生涯学習施設である「高年大学」においては、高齢者の生きがいづくりの場や機会の充実が進む。

④ 安心で快適に暮らせるまちの創造

・どこにでも歩いて行ける交通網の整備

北陸新幹線敦賀開業、冠山峠道路やリニア中央新幹線の名古屋開通に伴う幹線交通網の変化を見据えて、北陸新幹線福井駅と福井鉄道福武線・つつじバスとの連携やシェアリングエコノミー等を活用した、利便性の高い交通網が整う。

・みんなで作ろう安全・安心なまち




防育により市民の防災に対する意識が高まるとともに、市民と行政が協働で防災・減災に取り組むことで、子どもから高齢者まで全ての市民が安全で安心した生活を過ごすことができる。

・市民と共に“まち美化”の推進～きれいで、魅力的で、オシャレなまち～

市民・市民団体・事業者・行政が連携を図り、循環型社会を構築し、自然環境や生活環境が保全されるとともに、豊かな自然環境を保全するために、地球温暖化等に配慮して行動できる人材の育成が進む。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5, c	指標: 女性起業家数	
	現在(2019年3月): 20人	2021年: 35人
 8, 3 8, 5 8, 9	指標: サテライトオフィス誘致件数	
	現在(2019年3月): 6件	2021年: 10件
 9, 2 9, b	指標: 成長分野の技術開発、海外販路開拓件数	
	現在(2019年3月): 27件	2021年: 35件

地場産業の縮小により、若者や女性が地方離れする原因の一つとなっていたが、鯖江市最大の武器である地場産業の蓄積した高度な技術を最大限に活用して、他の成長分野に進出するなど、販路拡大に取り組むほか、起業・創業促進支援や創業スタートアップ支援、農商工連携による新たな商品の開発や農業の6次産業化、サテライトオフィスの積極的な誘致などを推進することにより、若者や女性にとって魅力ある雇用の場を創出する。また、女性に特化した事業の実施や他地域との連携を図ることで、先進的なロールモデルを発信し、「働きたくなる・働き続けたいくなるまち鯖江」を実現する。







(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 3	指標: 学生連携によるまちづくり提案数	
	現在(2019年3月): 19件	2021年: 19件
 17, 17	指標: まちづくりの提案をする団体数	
	現在(2019年3月): 37団体	2021年: 50団体

現在、若者や女性の柔軟で豊かな発想や創造力を市政に活かす学生連携事業を通じて、市外の若者や女性がものづくりの魅力と可能性に惹かれて定住し地場産業に携わると

いう好循環が生まれるとともに、全ての市民が主体的にまちづくりに参加できる「市民主役」「市民協働」の取組みを通じて、自ら市政に参加する市民や団体が年々増加している。また、「鯖江市役所 JK 課」や「鯖江市 OC 課」、「健康長寿アイドルグループ SBE80!」など、幅広い世代の女性がいきいきと社会に進出し活躍している。今後、鯖江市においても少子高齢化などによる人口減少が懸念される中、これらの施策を加速させ、鯖江市に愛着と誇りを持つ人々を増やすとともに、男女がともに活躍できる社会を実現する。

(環境)



ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 6, 3 6, 6	指標: 外来植物防除活動取組み箇所		
	現在(2019年3月): 5か所	2021年: 3か所	
 9, 4 9, b	指標: ごみの1人1日あたりの排出量		
	現在(2019年3月): 920グラム	2021年: 870グラム	
 12, 2 12, 5 12, 8	指標: 空き家利活用件数		
	現在(2019年3月): 9件	2021年: 19件	
 13, 3	指標: 環境フェアの入場者数		
	現在(2019年3月): 13,000人	2021年: 15,000人	
 14, 1	指標: 新素材を活用した印刷物の利用件数		
	現在(2019年3月): 0件	2021年: 10件	
 15, 2	指標: 森づくり事業 植樹苗木数(累計)		
	現在(2019年3月): 3,000本	2021年: 9,000本	

女性や若者、企業、学校などが連携した循環型社会の構築や自然環境に配慮して行動できる人材育成に取り組み、自然環境や生活環境の保全を推進するとともに、アップサイクルが可能な新素材を通じた脱炭素循環型社会を実現し、「安全で安心して暮らせる・暮らし続けられるまち」を目指す。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

① SDGsの普及啓発とシェアリングエコノミーの活用

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 11.2  17.17	11.2	指標:SDGs 推進補助金の支援件数	
	17.17	現在(2019年3月): 0件	2021年: 8件

SDGsの達成に向け、啓発やPRを通して、SDGsについての認知度と市民理解、企業理解を高め、市民、市民団体、企業、学校などと連携し、一丸となって取り組む機運を高める。また、シェアリングエコノミーをSDGs達成に向けた一つの手段と捉え利用促進を図る。

①-1 めがねのまちさばえSDGsプラットフォーム事業

SDGs推進の研修会やフォーラム、イベントの開催、SDGsイメージカラー等を使用した眼鏡型ピンバッジやシールを活用した啓発により、オール鯖江としての機運を醸成する。

SDGs推進には重要な点であるので、自治体SDGsモデル事業にも記載。







①-2 市民によるSDGs推進事業補助金

市民等がSDGs推進事業を行う際に要する費用の一部を支援する。

①-3 シェアリングシティさばえ推進事業

鯖江市の実情にあったシェアエコセミナーを開催し、市民の遊休資産やスキルのシェアに向けサービス登録支援や利用促進を図る。

②女性が輝くまち鯖江の推進

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
 3.1  5.4  5.5  5.c  8.5  10.2	3.1	指標:多様なワークスタイルを推進するセミナーの参加者数	
	5.4	現在(2019年3月):	2021年:
	5.5	71名	100名
	5.c		
	8.5		

		
---	--	--

特に女性の活躍は SDGs の17の目標を達成するための礎になるとの考えのもと、女性がいきいきと輝きエンパワーメントを十分に発揮できる環境を醸成する。本市の特に注力している取組みであるので、関連性が深く「自治体 SDGsモデル事業」においても記載。

②-1 女性が輝くまち鯖江世界発信事業

鯖江市の女性活躍の状況を国連本部で SDGs レポートとして紹介するとともに、SDGs イメージカラー等をイメージしたメガネを作成し、国内外での啓発活動に活用する。

②-2 第5次鯖江市男女共同参画プラン事業 ～女性が輝くまち鯖江～

女性の活躍と人権を推進する第5次男女共同参画プランを女性活躍推進計画と一体的に策定し、女性活躍推進社会および男女共同参画社会の実現を目指す。

②-3 選べるワークスタイル推進事業

あらゆる人々が自分の能力を発揮し、希望に合った働き方を選択できるよう意識啓発に取り組む。





②-4 輝く女性のヘルスケア事業

女性が職場や地域で元気に活躍できるよう、出産・育児の応援事業、輝く女性ヘルスケアセミナー、健康カフェ等を開催。

②-5 女性が働きやすい環境づくり応援事業

女性が働き続けやすくするための環境整備に取り組む市内事業者を支援する。

③健康福祉のまちづくりの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
   	1. 3 3. 4 4. 5 10. 2	指標：高年大学活動参加者数 現在(2019年3月): 33,000人 2021年: 38,000人

誰もが生涯にわたり、健やかで自立した生活を送りながら、目的を持っていきいきと活動できるよう、健康で活躍できる環境づくりを進める。

③-1 いきがい講座事業

健康で生きがいのある生活を送り、長寿を喜べる社会づくりのため、高齢者の学習活動への支援として、高年大学や公民館等で各種講座を行う。

③-2 食の自立支援事業

インカートクックシステム等を活用して、ひとり暮らしの高齢者への配食サービス等を行うことで、健康保持と健康状態を確認し、ひとり暮らし高齢者の生活を支援する。


③-3 ひとり親家庭の子育て安心プラン事業

ひとり親家庭の経済的負担を軽減するために、高等学校等に在学している生徒の通学のための公共交通機関の定期券購入費用を助成する。

③-4 新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業

クーポン券の配布、受診勧奨および精密検査の受診再勧奨を AI 活用して行い、子宮頸がん・乳がん検診の受診率の向上を図る。

④鯖江モデル教育の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4. 4	指標: ふるさと学習の参加者数	
	4. 7	現在(2019年3月): 2,700人

先人から受け継いだ地域の歴史や文化を学ぶことを通じて、ふるさとへの愛着と誇りを持ち、2030年の社会の担い手となる子どもたちに SDGs を理解する学習を取り入れ、身近なところから考えるきっかけづくりを進めることで、持続可能な社会を築く子どもたちを育成する。「自治体 SDGsモデル事業」を実施するうえで、基礎となる取組みであるため記載。

④-1 こどもエコクラブ活動支援事業

市内小学生の自発的な環境活動を支援し、環境に対する意識の更なる向上や環境保全活動の推進を図る。

④-2 ふるさと教育推進事業

子どもたちが、三大地場産業(眼鏡・漆器・繊維)、自然、文化、伝統、地域課題について学び、体験する学習を実施し、鯖江の発展を志向できる人材を育成する。

④-3 SDGs 教育推進事業

小中学生を対象に、SDGsに関連している学習と連動させた活動を行う。特に、中学生については、各自が SDGs 行動宣言を作成し、行動に移せるように取り組んでいく。

④-4 クリエイティブ教育都市事業

全小中学校でプログラミングクラブを開催し、IT社会を支えていく子供たちを育成する。

(2)情報発信

(域内向け)

市民協働でのSDGsの啓発・推進を行うが、行政と市民、市民団体、企業、学校など、それぞれの情報発信を強化するため、お互いがステークホルダーとして連携してアクションを起こすべく、鯖江市がそれぞれをつなげるプラットフォームとなり、イベントや研修会などを通して発信・啓発し、SDGsの認知度向上を目指す。そこから、市全体で次のステップへとムーブメントを起こしアクションにつなげる仕組みづくりを図っていく。

<事業例>

- ・市民のSDGsに対する認知度を高めるため、「SDGs ウィーク」として強化週間を設定し、その間、関係団体が連携して、さまざまイベントを通してSDGsを発信する。
- ・市民団体、企業、行政が連携して開催する「さばえ環境フェア」や「さばえものづくり博覧会」にてSDGsをテーマとし、関連ブースを設け、啓発する。
- ・これらのイベントを、報道等で取り上げてもらったり、特集番組等を制作してもらったりしてSDGsを県内外に情報発信する。
- ・環境教育・保全活動をしている市民団体がカードゲームによるSDGsの啓発活動や市民向け研修会を開催する。

(域外向け (国内))

国内で開催される様々な会議や研修会などを通して、鯖江市のSDGsの取組みを発信するとともに、連携している大学、企業、NGO団体などと協働で事業・研究を実施し、情報発信(SNSの活用)することにより、活動フィールドの拡大や新しい事業展開が見込める。

<事業例>

- ・環境自治体会議全国大会において鯖江市のSDGsの取組みを発信する。
- ・県外の連携企業のWebサイトでの発信
- ・かながわアップサイクルコンソーシアムに参加することでの取組みの発信。

(海外向け)

鯖江市で活躍する女性に焦点を当てたレポートやその他の鯖江市の取組みを映像等で見える化し、国連でレポートしていく。

また、鯖江市のSDGs推進シンボルマーク「グローバル」を活用して、キャンペーン眼鏡を提案し、国連を通して、世界に発信する。その他、海外との接点を得る機会として、積極的に鯖江市のSDGsの取組みを紹介する。

<事業例>

- ・女性が輝くまち鯖江世界発信事業
- ・東ティモール・カンボジア・アフガニスタン等からの視察団の受入れ
- ・国連SDGsアクションキャンペーンが主体のドイツ・ボンで開催された世界会議での発信

(3)普及展開策

(他の地域への普及展開性)

鯖江市の自治体 SDGs の推進に資する取組みは、多くの自治体が直面している課題に対し、市民との協働や学生との連携、女性の活躍によって解決を目指すものであり、全ての自治体への普及展開が可能である。

なお、6 月には、県内外に発信力の大きく、地域特性を活かした市民、企業、学校が協働で実施するイベントである「めがねフェス」や「吹奏楽フェスティバル」、NPO 団体が主催する「さばえ環境フェア」等で、テーマを SDGs として開催し、認知度向上を図った。

また、6/1～9 の期間を「SDGs Week」とし、様々な形で SDGs の啓発を行った。

加えて、6 月 23 日から 29 日の国の男女共同参画週間には、これらのイベントと鯖江市の SDGs の取組みを絡ませ、企業と連携したイベントや中学校での講演会、中小企業セミナーなど開催した。

また、10 月には、市内において、全国から約 4 万人が集う工房開放イベント「RENEW」が開催される。来場者の多くが 30 代から 40 代の女性で、6 割強が県外から来訪するため、このイベントを活用し、鯖江市のものづくりと女性活躍を軸とした、SDGs の取組みを発信するとともに、シェアリングエコノミーの利用を、SDGs の取組みとして推進する。

かながわアップサイクルコンソーシアムとも連携し、環境負荷の低い新素材を活用したアップサイクルシステムの視察や、SDGs の勉強会を含めた活用セミナーなどを開催し、横展開を図る。加えて、アップサイクル商品の開発を進め、商品の耐久試験を目的とした実証実験を行う。

<事業例>

- ・サテライトオフィス誘致事業
- ・越前ものづくりの里プロジェクト事業
- ・シェアリングシティさばえ推進事業
- ・選べるワークスタイル推進事業
- ・持続可能な素材活用推進事業

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

2019年度に計画期間を終えるものから、順次SDGsを盛り込んだ計画に改訂する。

市の最上位計画である総合戦略の改訂に伴って、具現化のための事業を位置付け、実行していくため、各種計画の体系化を進め、SDGsを推進していく。

1. 鯖江市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2018年度に、重点施策の中に包括的な指針としてSDGsの理念を追記。

新たな計画には、SDGsの各目標達成と関連したKPIを設定するなど、SDGsを全面に盛り込んだ内容に改訂する。

2. (仮称)輝く女性活躍推進計画(第5次鯖江市男女共同参画プラン)

女性活躍を柱とするSDGsの取組みを加速するべく、女性のエンパワーメントの促進や働く女性の活躍支援、仕事と家庭の両立支援などを盛り込むなど、目標5「ジェンダー平等の実現」と連携した内容とする。

3. 鯖江市子ども・子育て支援事業計画

鯖江市に住むあるいは生まれてくるすべての子どもたちに健やかな育ちを支援し、また親の育ちを支援する社会の実現を目指すための計画。

SDGsの理念を反映させ、子育て家庭の経済的な負担や不安感を軽減し、安心して子供を産み育てることができる環境づくりのための施策を検討する。

4. 教育の振興に関する施策の大綱

2020年からの新学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」の育成が盛り込まれることを受け、2018年度にSDGsを理解する学習を取り入れ、身近なところから考えるきっかけづくりを進めることを追記。

5. 消費者教育推進計画

消費者が必要な情報を得て、自主的・合理的に行動できるよう、生涯にわたりその人に応じた消費者教育を推進するための計画。エシカル消費を推進する取組みを盛り込む。

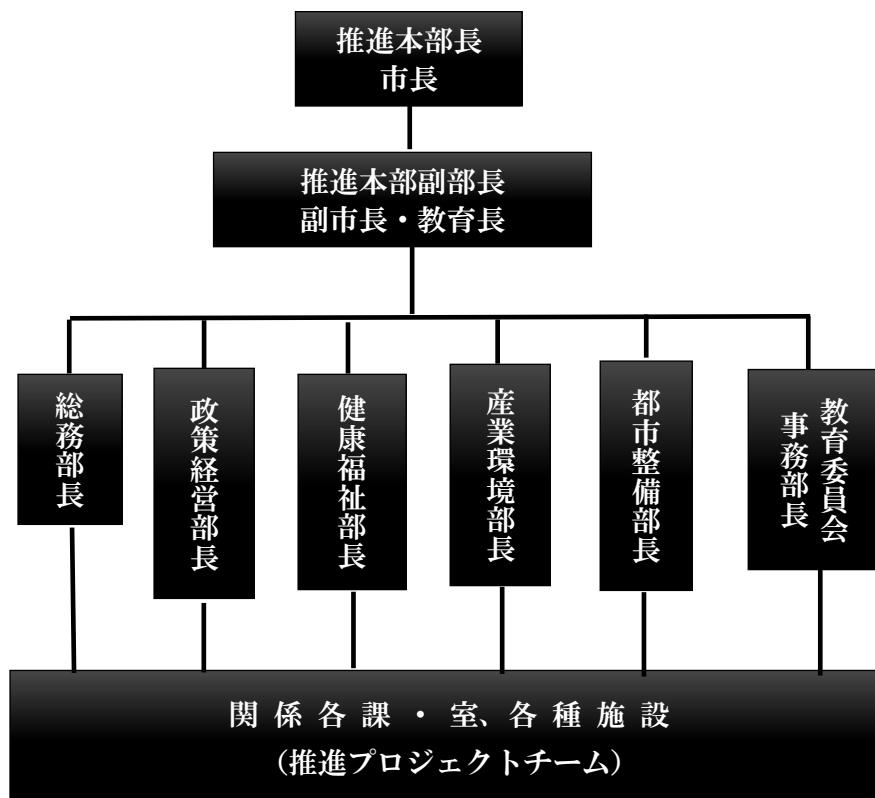
<今後、反映を見込む計画>

- ・環境基本計画
- ・一般廃棄物処理基本計画
- ・地球温暖化地域推進計画
- ・農業・林業・農村ビジョン
- ・食育推進計画
- ・都市計画マスタープラン
- ・公共施設等総合管理計画
- ・次世代育成支援対策特定事業主行動計画

(2) 行政体内部の執行体制

① “めがねのまちさばえ”SDGs 推進本部(2018.5.25 設置)

【体制図】



17の目標、169のターゲットに沿った目標達成に向けて、推進方法や各種施策について検討し、総合戦略や各種計画の中に取り組みを明記し、市民や市民団体、経済団体等と共通認識の中で連携する体制を図る。

また、毎年、各部ごとに年度取組目標を定める施策方針に、SDGsの目標達成と関連した数値目標を定め、推進する。

② “めがねのまちさばえ”SDGs推進プロジェクトチーム

推進本部で決定したことを各課の事業に反映させ、確実な実施につなげる。また、推進に関することを提案し、本部会議へ提案等を行う。

チームは各課1名の担当者により構成する。

③ “めがねのまちさばえ”SDGs推進市民会議

鯖江市のSDGs推進に係る取組みの、評価、改善、提案を実施する民間組織として、設置する。

メンバーは、市民団体、NPO、企業、学校関係者等の地域のステークホルダーで構成する。また、鯖江市の重点目標として掲げる目標5の「ジェンダー平等の実現」達成にむけ、「輝く女性のためのまちづくり研究部会」をこの中に設置する。

④ “めがねのまちさばえ”SDGs推進会議(鯖江市総合戦略推進会議と併設)

鯖江市総合戦略の中に位置付けられたSDGs推進の計画の実施内容や進捗等について評価し、助言等を行う組織として設置する。市民、産業界、大学、金融機関、労働団体、言論界等のいわゆる「産官学金労言」の有識者で構成。

(3) ステークホルダーとの連携

(域内外の主体)

(市民)

鯖江市民主役条例の「市民が市政に主体的な参加」という目的や「まちづくりの主役は市民である」という基本理念に基づき、SDGs の理念のもと、市民協働で持続可能な地域づくりを目指し、目標達成に向けて推進していくことが、最も重要である。

鯖江市の将来のあるべき姿を共有し、実現に向けた各種計画の推進に向け、“めがねのまちさばえ”SDGs 推進市民会議をプラットフォームとして、オール鯖江で取り組む機運の醸成と推進を図る。

特に、市の SDGs 推進の核としている「ジェンダー平等の実現」の目標達成に向けては、市民会議内に設置する「輝く女性のためのまちづくり研究部会」を中心に「鯖江市役所JK課」や「鯖江市OC課」、「さばえ男女共同参画ネットワーク」と連携しながら、事業を展開する。

(企業、金融機関)

鯖江市は、眼鏡、繊維、漆器の三大地場産業をもつ「ものづくりのまち」である。古くから下請け分業体制のもとで発展してきたため、4 人以下の家族経営が多いが、加えて、若者の製造業離れや事業者、労働者の高齢化による担い手不足など課題が多い。

そこで、働き方改革など経営改善の切り札として SDGs を活用した事業展開を図るべく、鯖江商工会議所、一般社団法人福井県眼鏡協会、協同組合鯖江市繊維協会、越前漆器協同組合、鯖江観光協会、公益社団法人鯖江青年会議所などの団体と連携して、研修会やイベントなど啓発活動を開催し、取組促進を図る。連携協定を結んでいる三井住友海上火災や LIFULL などの企業のノウハウも生かし、連携し推進を図る。

金融機関については、めがねのまちさばえ応援企業である福井信用金庫や既に SDGs 推進に取り組んでいる株式会社福井銀行と連携し、SDGs 推進のための啓発や新たな事業展開などを図る。

(教育機関)

市の教育大綱に SDGs を理解する学習を取り入れる内容を追記したことに伴い、教育委員会と連携し、小中学校の児童・生徒に向け、SDGs の理念の浸透を図り、2030 年の持続可能な社会を担う人材の育成を図る。

また、連携協定を結んでいる、福井工業高等専門学校、福井工業大学、京都精華大学、明治大学、福井大学、二本松学院、国立情報学研究所、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、津田塾大学、電気通信大学と各分野での SDGs 目標達成に向け、鯖江市をフィールドワークに、持続可能なまちづくりを模索する。

加えて、京都大学大学院地球環境学堂との中長期的なプラン策定、アクションプランの設定を行い、政策に結び付ける取組を行う。

(国内の自治体)

①神奈川県

持続可能な素材「LIMEX」のアップサイクルの実践による「環境負荷の低い地域モデルの構築」を図るため、大都市と地方という地域特性を活かしながら、各取組みの相乗効果を図り、「持続可能なものづくり」の推進とモデル発信を目指す。

②ふくい嶺北連携中枢都市圏の形成

2019年度から福井市を連携中枢都市とする嶺北11市町(福井市、鯖江市、越前市、坂井市、あわら市、勝山市、大野市、永平寺町、越前町、南越前町、池田町)による連携中枢都市圏が形成されることから、圏域全体の持続的な発展を見据え連携を図る。

③越前ものづくりの里プロジェクト

福井県の伝統的工芸品地が集積している近隣市町(鯖江市・越前市・越前町)と連携し、職人育成や国内外への魅力発信を通して、伝統工芸従事者の増と需要拡大を図る。

④丹南広域観光協議会

福井県のほぼ中央に位置する丹南地域5市町(鯖江市・越前市・池田町・南越前町・越前町)において、広域的な周遊・滞在型観光推進エリアを創出し、観光地を点から面にパワーアップする。

(海外の主体)

国際機関と連携した情報発信や海外の国、地域との連携を図る。

①特定非営利活動法人 国連の友 Asia-Pacific

2015年より、鯖江市の女性活躍を中心とした番組を地元CATVと制作、放送し、国連へのレポートを実施し、その中の鯖江市の取組みが注目され、2018年5月に鯖江市長が国連ニューヨーク本部にてSDGs推進会議に出席し、市の取組みを発表した。今年の6月にもビデオレターでスピーチし、推進会議の中で本市の取組みを紹介。5月にドイツのボンで開催された国連の世界会議において、アップサイクルのキャンペーンメガネでのSDGs推進をPR。国連の友APと企業と連携で女性の活躍を妨げる要因の一つとして考えられる「インポスター症候群」ゼロ運動を開始するためのTALSE女性委員会を発足させた。今後もアドバイス等、連携を図りながらSDGs推進を図っていく。

②国際協力機構 北陸センター(JICA北陸)

ウガンダ、アフガニスタン、ケニア、タンザニアなどの行政職員に対する産業と女性活躍についての研修や東ティモール行政職員に対する男女共同参画についての研修の受け入れを実施。今後も実施予定。

③公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

ふくいユネスコ協会と連携し、子どもたちに対するSDGs教育に向け、事業連携を行う。

④国際連合地域開発センター

セミナー開催協力やSNSを活用した海外への情報発信について助言等を受けている。

1.4 地方創生・地域活性化への貢献

地域のブランド力を高め、魅力ある雇用を生み出し、若者が住みたくなる・住み続けたくなるまちづくりをSDGs目標達成の取組みを通して実現を目指すため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の来年度からの新たな計画にはSDGsを全面的に盛り込んだ内容にする。

SDGsを展開していくためには、行政におけるエンパワーメントはもとより市民や市民団体、企業などあらゆるステークホルダーにおけるエンパワーメントが重要である。SDGsを展開していくのは人であり、連携して取り組むことで、各事業の成果が期待できることはもとより、高い相乗効果を生み出すことにもなる。

これらステークホルダーのエンパワーメントを育むには、潜在的ポテンシャルが十分に活かされていない女性のエンパワーメントを引き出すことがより効率的であり、女性が活躍できる環境を整えることで、家庭の環境が改善され、子どもや男性、そして地域のエンパワーメントにも大いに好影響を与えることになる。

そこで、地域特性を活かし、経済・社会・環境の3分野において、女性が輝くまちづくりを軸とした「居場所」と「出番」づくりを創出することで、女性のエンパワーメントを生み、子どもや男性、地域のエンパワーメントにつなげていく。そして、そのような環境の中で、女性の意思決定への参加の促進とリーダーシップの機会の拡大を図る。

①ものづくりのまちの経済成長の推進

地場産業の蓄積した高度な技術を活用した成長分野への進出と、農商工連携による新たな商品の開発や農業の6次産業化、サテライトオフィス業の積極的な誘致などにより、若者や女性にとって魅力ある雇用の場を創出する。

②市民・学生との協働によるまちづくりの推進

学生を中心とした若者や女性を市政の「パートナー」と位置付け、若者達のチャレンジを全力で応援し、その創造力を市政に活用する。また、市民がふるさとに愛着や誇りを持ち、市政に直接的に広く参画するような、市民主役、全員参加のまちづくりを推進する。

③女性が輝くまち鯖江の推進

女性のエンパワーメントを生み出すために、女性活躍の見える化やワーク・ライフ・バランスの推進、子育て環境の整備、女性の人生・生活に寄り添ったヘルスケアの推進、経済分野における女性リーダーの育成に取り組む。並行して、居場所と出番の創出および女性活躍を阻害している要因と思われるインポスター症候群等の調査・対策に取り組む。

④環境にやさしいまちづくりの推進

市民・市民団体・事業者・行政が連携を図り、環境に配慮して行動できる人材育成に取り組み、循環型社会の構築を目指すことで、豊かな自然環境を保全するために、自然環境や公共空間の管理を一体的に推進し、住み続けたいと思える生活環境が整えられる。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) 課題・目標設定と取組の概要

自治体SDGsモデル事業名： 女性が輝く「めがねのまちさばえ」
～女性のエンパワーメントが地域をエンパワーメントする～

経済・社会・環境の3分野において、女性が輝くまちづくりを軸とした「居場所」と「出番」づくりを創出することで、女性のエンパワーメントを生み、子どもや男性、地域のエンパワーメントにつなげていく。そして、そのような環境の中で、女性の意思決定への参加の促進とリーダーシップの機会の拡大を図る。

①課題・目標設定

①経済面

- ゴール4、ターゲット 4.4
- ゴール5、ターゲット 5.c
- ゴール8、ターゲット 8.3 8.5 8.9
- ゴール9、ターゲット 9.2 9.b
- ゴール11、ターゲット 11.2



②社会面

- ゴール3、ターゲット 3.1
- ゴール4、ターゲット 4.7
- ゴール5、ターゲット 5.4 5.5 5.c
- ゴール8、ターゲット 8.5
- ゴール10、ターゲット 10.2
- ゴール11、ターゲット 11.2 11.3
- ゴール17、ターゲット 17.17



③環境面

- ゴール4、ターゲット 4.7
- ゴール6、ターゲット 6.3 6.6
- ゴール9、ターゲット 9.4 9.b
- ゴール12、ターゲット 12.2 12.5 12.8
- ゴール13、ターゲット 13.3
- ゴール14、ターゲット 14.1 ゴール15、ターゲット 15.2



②取組の概要

鯖江市は1955年の市制施行以来人口が増え続けているが、若者の県外への人口流出は続いており、近い将来、人口減少時代が来ると推計されている。今後、将来にわたって成長力を確保し、持続可能なまちづくりを進めるには、女性も若者も高齢者も、そして障がい者も“誰一人取り残さない”地域社会の実現を目指すことが必要と考える。

鯖江市は、眼鏡・繊維・漆器といった三大地場産業を持つものづくりのまちであり、古くから下請け分業体制であるため、家族経営が多く、女性も経営を担う一員としての役割を担っていたことから、女性の就業率や共働き率も高く、企業風土として息づき、女性が働きやすく社会参画しやすい風土である。一方で、少子高齢化や若者の県外流出による担い手不足や若者・女性の雇用のミスマッチ、空き家、空き店舗の増加などの課題がある。

これらの課題解決に向け、経済面の取組みとして、「ITのまち鯖江」の強みを活かし、大都市のIT企業を主とする、サテライトオフィスの誘致に取り組み、雇用の創出を図っている。

また、社会面の取組みとして、学生連携、市民主役、オープンデータによるまちづくりに鯖江モデル事業として取り組んでおり、「地域活性化プランコンテスト」や「鯖江市役所JK課」、「プログラミング教育」などで注目され、各方面からの問い合わせも多い。

さらに、環境面の取組みとしては、1500年の歴史を持つ伝統工芸「越前漆器」の産地では、株式会社TBM、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科と連携し、持続可能な素材を活用したアップサイクル商品を開発している。

これらの取組みは、互いに影響し合い、相乗効果を生み出しながら展開が進んでいくが、更なる成果を目指す上では、全てのステークホルダーのエンパワーメントが重要であることはいうまでもない。

そこで、地域特性を活かし、経済・社会・環境の3分野において、女性が輝くまちづくりを軸とした「居場所」と「出番」づくりを創出することで、女性のエンパワーメントを生み、子どもや男性、地域のエンパワーメントにつなげていく。そして、そのような環境の中で、女性の意思決定への参加の促進とリーダーシップの機会の拡大を図る。

(2) 三側面の取組

(経済面の取組)

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	4. 4	指標: サテライトオフィス誘致件数	
	5. c	現在(2019年3月):	2021年:
	8. 3	6件	10件
	8. 5	指標: 成長分野の技術開発、海外販路開拓件数	
	8. 9	現在(2019年3月):	2021年:
	9. 2	27件	33件
	9. b	指標: 女性起業家数	
	11. 2	現在(2019年3月):	2021年:
		20人	35人

女性の活躍を推進していくことで、女性の視点を取り入れたものづくりが活発になる。また、女性の「居場所」や「出番」が増えることにより、女性起業家や新しい分野の企業の誘致なども生まれ、女性や若者の雇用創出を図ることができる。

① 魅力ある雇用の創出

①-1 サテライトオフィス誘致事業

空き家を活用したサテライトオフィス誘致を図るため、大都市でのセミナーや企業訪問、鯖江市体験ツアー等を行う。

①-2 成長分野技術確立・販路開拓事業

医療やウェアラブル情報端末等、成長分野への参入目指した製品開発を促すとともに、国内外の見本市出展等、販路開拓を促す。

①-3 越前ものづくりの里プロジェクト事業

丹南地域(鯖江市、越前市、越前町等の隣接2市3町)は、越前漆器、越前和紙、越前打刃物、越前焼、越前箆笥の5つの国指定の伝統工芸品産地が半径10キロ以内に近接している全国でも稀な地域であり、丹南地域の伝統工芸の各産地が連携して職人の育成や産地の魅力向上に取り組み、知名度向上と需要拡大を図る。

①-4 「めがねのまち鯖江」元気再生事業

産学官金が一体となって眼鏡、漆器、繊維産業を中心とする市内産業の元気再生に取り組む。

①-5 特産物ブランド化事業

鯖江産特産物(吉川ナス、さばえ菜花米、さばえ夢てまり、山うに、川島ごぼうなど)のブランド化を行うため、意欲ある市内の農業者団体等を総合的に支援する。

② 教育大綱によるIT人材育成

②-1 クリエイティブ教育都市事業


全小中学校でプログラミングクラブを開催し、IT社会を支えていく子供たちを育成する。

③ シェアリングエコノミーの活用

③-1 シェアリングシティさばえ推進事業

鯖江市の実情にあったシェアエコセミナーを開催し、市民の遊休資産やスキルのシェアに向けサービス登録支援や利用促進を図る。

(社会面の取組)

ゴール、ターゲット番号		KPI	
	3. 1	指標: まちづくりの提案をする団体数	
	4. 7	現在(2019年3月):	2021年:
	5. 4	37団体	50団体
	5. 5	指標: 学生連携によるまちづくり提案数	
	5. c	現在(2019年3月):	2021年:
	8. 5	19件	19件
	10. 2	指標: 新たに女性の働きやすい環境整備を行う企業数	
	11. 2	現在(2019年3月):	2021年:
	11. 3	0社	12社
	17. 17	指標: 審議会等における女性の登用率	
	現在(2019年3月):	2021年:	
	32%	35%	

女性の活躍推進の事業が好循環を生み、ロールモデルとして横展開を図り、ますます活発化することで、男女共同参画社会が確立し、若者がまちづくりに積極的に参加するようになり、まちも活気づくようになる。また、活気づくことで、多様なステークホルダーが集まり、新たな事業展開も生み出すことができる。

①協働のまちづくり

①-1 提案型市民役事業(「鯖江市OC課」事業を含む。)

市が行っている事業のうち、市民が「新しい公共」の担い手として自ら行ったほうが良い事業を委託するなど、市民の自治力を高める。

①-2 学生との連携事業(「鯖江市役所JK課」事業を含む。)

地元住民との交流や地域産業との触れ合いを通じて、学生が主体となり地域活性化など、まちづくりへの提案を行う場を設けること等を通じて、若者の柔軟で創造性豊かな発想を市の施策に反映することにより、若者が活動しやすい、市民役のまちづくりに努める。

②女性が輝くまちの推進

②-1 女性が輝くまち鯖江世界発信事業

鯖江市の女性活躍の状況を国連本部でSDGsレポートとして紹介するとともに、SDGs

イメージカラー等をイメージしたメガネを作成し、国内外での啓発活動に活用する。

②-2 第5次鯖江市男女共同参画プラン事業 ～女性が輝くまち鯖江～

女性の活躍と人権を推進する第5次男女共同参画プランを女性活躍推進計画と一体的に策定し、女性活躍推進社会および男女共同参画社会の実現を目指す。

②-3 輝く女性のヘルスケア事業

女性が職場や地域で元気に活躍できるよう、出産・育児の応援事業、輝く女性ヘルスケアセミナー、健康カフェ等を開催。

②-4 女性が働きやすい環境づくり応援事業

女性が働き続けやすくするための環境整備に取り組む市内事業者を支援する。

②-5 選べるワークスタイル推進事業

あらゆる人々が自分の能力を発揮し、希望に合った働き方を選択できるよう取り組む。

②-6 「わたしの日プロジェクト」事業

365日休みのないお母さんや、子育てと仕事を頑張るすべての人たちがもっと「わたしらしく」生きられる社会をまち全体でつくっていく取組み。市内の企業等の職場環境の改善やお母さんのスキルアップの機会創出等、中期的に推進する。

③教育大綱による SDGs 推進

③-1 SDGs 教育推進事業

小中学生を対象に、SDGsに関連している学習と連動させた活動を行う。特に、中学生については、各自がSDGs行動宣言を作成し、行動に移せるように取り組んでいく。

③-2 ふるさと教育推進事業

子どもたちが、三大地場産業(眼鏡・漆器・繊維)、自然、文化、伝統、地域課題について学び、体験する学習を実施し、鯖江の発展を志向できる人材を育成する。

④シェアリングエコノミーの活用

④-1 地域公共交通の再編事業


2023年春に開業する北陸新幹線福井駅と福井鉄道福武線・つつじバスとの連携やシェアリングエコノミー等を活用した新たな高齢者の移動手段を研究するなど、利便性の高い交通網の確保を図る。

⑤SDGsの普及啓発

⑤-1 めがねのまちさばえ SDGs プラットフォーム事業

SDGs推進の研修会やフォーラム、イベント、SDGsイメージカラー等を使用した眼鏡型ピンバッジやシールを通じた啓発により、オール鯖江としての機運を醸成する。

(環境面の取組)

ゴール、 ターゲット番号		KPI	
	4. 7	指標:ごみの1人1日当たりの排出量	
	6. 3	現在(2019年3月):	2021年:
	6. 6	920g	870g
	9. 4		
	9. b		
	12. 2		
	12. 5		
	12. 8		
	13. 3	指標:空き家利活用件数	
	14. 1	現在(2019年3月):	2021年:
15. 2	9件	18件	

ごみの分別やエシカル消費など環境に配慮した循環型社会を目指すには、女性の力が最も鍵となるのは必然であり、女性が積極的に取り組むことで、家庭や地域にも好循環が生まれ、環境に関心の高い市民の増加が図られる。環境に関心の高い市民が増加することで、地球温暖化に対する推進や自然保全などの運動につながる。

また、環境に関心が高くなり、環境のことを考えた商品の需要が増えることで、同じような商品が製品化され販売されることになり、まち全体で環境にやさしいまちづくりを目指すことができる。

①循環型社会の構築

①-1 持続可能な素材活用推進事業

紙やプラスチックの代替新素材「LIMEX(ライメックス)」を用いて、印刷物(紙)を配布し、不用となったら回収し、漆器や眼鏡等の素材(プラスチック)へアップサイクルして製品化し販売することで、環境負荷の低い地域モデルを構築する。

①-2 さばえエコ農業支援対策事業

化学肥料・農薬等の削減等、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動に取り組む農業者を支援する。

①-3 COOLCHOICE&SDGs普及啓発事業

環境イベントや講演会において、COOLCHOICE(クールチョイス)やSDGs、エシカル

消費などの普及啓発に取り組む。

①-4 空き家再生等推進事業

空き家の再生を主な目的として、県内外からの起業進出する際に市内空き家を有効利活用するための改修費を支援する。

②環境に配慮した人材育成

②-1 こどもエコクラブ活動支援事業

市内小学生の自発的な環境活動を支援し、環境に対する意識の更なる向上や環境保全活動の推進を図る。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組

統合的取組の事業名：女性活躍プラットフォーム創出事業 ～鯖江から世界へ～

女性活躍に向けた意識啓発を行い、活動を活発化することで、活動拠点に様々なステークホルダーが集まり、更なる活動を生み、情報交換が行われ、その取組みを世界的な会議等でレポートすることにより、女性のエンパワーメントが生み出される。

(取組概要)

SDGs を三側面において展開していくためには、行政におけるエンパワーメントはもとより、市民や市民団体、企業などあらゆるステークホルダーにおけるエンパワーメントが重要である。SDGs を展開していくのは人であり、三側面に携わるそれぞれの人々が同じく高い理想と目的の下で連携して取り組むことで、三側面内における各事業の成果が期待できることはもとより、三側面間での高い相乗効果を生み出すことにもなる。

これらステークホルダーのエンパワーメントを育むには、様々な要因によりその潜在的ポテンシャルが十分に活かされていない女性のエンパワーメントを引き出すことがより効率的であり、そもそも、女性の活躍なくして SDGs の17の目標達成はありえない。また、女性が活躍できる環境を整えることで、家庭の環境が改善され、子どもや男性、そして地域のエンパワーメントにも大いに好影響を与えることになる。

そこで、女性のエンパワーメントを生み出すために、居場所と出番の創出および障害となるインポスター症候群等の調査・対策に取り組む。また、これらの取組みを進める上で、鯖江市の女性活躍推進施設である「夢みらい館・さばえ」の一部を活動拠点とし、様々なステークホルダーの活動や情報交換を支援するとともに、国内外に向けて鯖江市の取り組み状況を発信することで横展開も図っていく。

<実施事業>

○女性活躍の世界発信

・国連ハイレベル政治フォーラムでの発信

女性活躍総合イベント、高校生まちづくりサミット、女性活躍意識啓発、女性委員会シンポジウムなどの紹介番組を制作し、国連ハイレベル政治フォーラムや活動拠点施設で上映する。

・国際的な女性会議の参加

国際女性会議などの国際的な女性会議への参加を目指し、本市の取組み状況を発信する。

○女性活躍に向けた意識啓発

・女性活躍総合イベント

本市が目指す「ジェンダー平等の実現」「女性活躍推進」を軸とした SDGs 推進・普

及啓発を目的に、インポスター症候群の研究成果など女性活躍に関する講演・シンポジウムとして「国連の友 TALSE 女性委員会」、「全国 OC サミット」の開催や 3 月 8 日の国際女性デーと連動したキャンペーンの展開、「わたしの日プロジェクト」関連イベントを実施する。また、SDGs に関連したアップサイクル活用セミナーや男性向けのワーク・ライフ・バランス研修など、意識啓発を図る研修・セミナーを実施する。合わせてこれらイベント活動実施にあたり、専門的な知識・ネットワークのある人材を有する企業からプロデュースや提案、助言の支援を受ける。

・全国高校生まちづくりサミット

「鯖江市役所 JK 課」プロデュースにより、全国でまちづくり活動を展開している高校生を招聘し、今後のまちづくりについての意見交換や交流を行い、女子高生のみならず男子高生も参加し、男女参画社会に対する意識やまちづくり参加意識の向上を図る。また、スポーツ庁とのコラボ企画「女性運動促進プログラム“ゆるい運動会”」の実施、SDGs まちづくりワークショップを開催し、若者への SDGs 推進の意識向上を図る。

・女性活躍意識啓発（満足度、インポスター症候群）

本市が目指す「ジェンダー平等の実現」「女性活躍推進」を軸とした SDGs 推進・普及啓発を目的に、地域住民が参加する男女共同参画推進に係る講座「さんかくカフェ」で女性活躍の阻害要因であるインポスター症候群に関する講座を実施する。合わせて講座参加者にインポスター症候群に対する意識調査を実施し、その調査結果を指標化し「国連の友 TALSE 女性委員会」などのシンポジウムで成果報告する。また、指標化された成果報告を対外的にオープン化することにより、女性活躍や地域貢献に積極的な企業や団体など様々なステークホルダーとのコラボレーションが促され、市民の活躍満足度の向上、鯖江市の魅力向上に繋げていく。

○活動拠点整備

・夢みらい館・さばえ

SDGs の目標達成には、中長期的に多様なステークホルダーがつながり、行動できることが重要であり、独自に継続的に活動できる場が必要であるため、女性活躍推進、男女共同参画事業の活動拠点施設である「夢みらい館・さばえ」を一部エコ改修し、結婚や子育てにより芽生えた世の中への思いを持つ人、子育てが終わり、余裕時間ができたことで、過去の振り返りを胸に秘めている人、外国人、高齢者、子ども、障がい者など、多様な世代の思いを交換する場として、また、様々なステークホルダーが活動し情報交換を行う場・気軽に立ち寄れる拠点として整備する。また、本事業を拠点施設から国内外にロールモデルとして発信していくことで横展開を図り、多様なステークホルダーと新たな事業展開も生み出していく。さらに、当該施設に国連の女性機関の誘致を目指し、本市と連携することにより、女性活躍の推進を加速させるとともに、国際的な女性活躍の情報を収集・閲覧できる機能を持つ国連女性活躍資料館の機能

も目指す。

1F:ミーティングルーム、キッズルーム、多目的トイレ、授乳室、玄関スロープ

(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程による工夫)

鯖江市の女性活躍のシンボリックな事業である「鯖江市役所JK課」や「鯖江市OC課」などの事業を継続して展開するとともに、女性活躍の見える化やワーク・ライフ・バランスの推進、子育て環境の整備、女性の人生・生活に寄り添ったヘルスケアの推進、経済分野における女性リーダーの育成に取り組む。並行して、女性の活躍を阻害している要因を探り対応策を検討・実行することで、更なる活躍を図っていく。女性の活躍が、SDGsの取組に関わるステークホルダーのエンパワーメントにつながり、個々の事業はもとより事業間や三側面間の相乗効果を生み出す。

加えて、これらの取組を進めていく上で、様々なステークホルダーが自由に集まり、活動できる拠点を設け、情報共有や研修を行う場として活用し、相乗効果を図る。

また、これらの取組内容を新たな社会的課題に対する取組みとして、鯖江市の先進的な女性活躍の状況と併せて、国内外に発信することで、女性の活躍や社会貢献に対して感度の高い企業からのアプローチを得るとともに社会的課題意識の高い若者の関心を集めることになり、更なる事業効果につながる。

活動拠点整備によって、様々なステークホルダーの活動や情報交換の場が設けられることで、女性活躍に向けた意識啓発事業が促進され、新たな取組みが生み出されることが期待でき、それらをロールモデルとして世界に向けて発信することで、新たなステークホルダーが活動拠点に集まるという、好循環が生みだされる。

◆ 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果（新たに創出される価値）

①経済⇄環境

（経済→環境）

KPI（環境面における相乗効果等）	
指標：空き家利活用件数	
現在（2019年3月）： 9件	2021年： 18件

「女性活躍プラットフォーム創出事業」で女性のエンパワーメントが生み出されることにより、経済面「魅力ある雇用の創出」が、求職者の増加や質の向上、女性視点による新たな価値を持つ商品開発・ブランド化、シェアエコサービス登録や利用の増加によって大きく進展する結果、環境面「循環型社会の構築」が、COOLCHOICE（クールチョイス）に対応した企業の増加、企業のCSRによる環境保全、サテライトオフィスとして利用する空き家の需要増加などによって一層促進される。

（環境→経済）

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：成長分野の技術開発、海外販路開拓件数	
現在（2019年3月）： 14件	2021年： 22団体

「女性活躍プラットフォーム創出事業」で女性のエンパワーメントが生み出されることにより、環境面「循環型社会の構築」が、家庭内での資源物分別回収の徹底、COOLCHOICE（クールチョイス）など環境に配慮した商品購入意識の浸透などによって大きく進展する結果、経済面「魅力ある雇用の創出」が、持続可能なアップサイクル素材の活用やエシカル消費を意識した新たな価値を持った商品開発になどによって一層促進される。

② 経済⇄社会

(経済→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: まちづくりの提案をする団体数	
現在(2019年3月): 37団体	2021年: 50団体
指標: 新たに女性の働きやすい環境整備を行う企業数	
現在(2019年3月): 0社	2021年: 12社

「女性活躍プラットフォーム創出事業」で女性のエンパワーメントが生み出されることにより、経済面「魅力ある雇用の創出」が、求職者の増加や質の向上、女性視点による新たな価値を持つ商品開発・ブランド化、シェアエコサービス登録や利用の増加によって大きく進展する結果、社会面「若者の移住・定住の促進や女性の活躍の推進」が、若者の市内就業の増、女性が働きやすい職場の増などによって一層促進される。

(社会→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: サテライトオフィス誘致件数	
現在(2019年3月): 6件	2021年: 10件
指標: 女性起業家数	
現在(2019年3月): 20人	2021年: 35人

「女性活躍プラットフォーム創出事業」で女性のエンパワーメントが生み出されることにより、社会面「若者の移住・定住の促進や女性の活躍の推進」が、学生連携事業による鯖江市に関心を持つ学生の増加や、提案型市民主役事業による「新しい公共」の担い手である女性や若者の増加によって大きく進展する結果、経済面「魅力ある雇用の創出」が、企業・商店の後継者や起業家の増加、女性や若者が元気で活発との印象によるサテライトオフィスの有利な誘致などによって一層促進される。

③ 社会⇄環境

(社会→環境)

KPI（環境面における相乗効果等）	
指標:ごみの1人1日当たりの排出量	
現在(2019年3月): 920g	2021年: 870g

「女性活躍プラットフォーム創出事業」で女性のエンパワーメントが生まれることにより、社会面「若者の移住・定住の促進や女性の活躍の推進」が、市民のまちづくりへの当事者意識・参加意欲の向上、地域への愛着と誇りの醸成によって大きく進展する結果、環境面「循環型社会の構築」が、地域の自然環境保全への関心が高まり、持続可能なアップサイクル素材の利用や、エシカル消費や COOLCHOICE(クールチョイス)など環境に配慮した商品購入につながる購入意識の浸透によって一層促進される。

(環境→社会)

KPI（社会面における相乗効果等）	
指標:学生連携によるまちづくり提案数	
現在(2019年3月): 8件	2021年: 12件
指標:審議会等における女性の登用率	
現在(2019年3月): 32%	2021年: 35%

「女性活躍プラットフォーム創出事業」で女性のエンパワーメントが生まれることにより、環境面「循環型社会の構築」が、家庭内での資源物分別回収の徹底、COOLCHOICE(クールチョイス)など環境に配慮した商品購入意識の浸透などによって大きく進展する結果、社会面「若者の移住・定住の促進や女性の活躍の推進」が、女性や若者の社会参加意識の向上や女性活躍や環境問題など社会的課題意識の高い若者の関心を集めることによって一層促進される。

(4) 多様なステークホルダーとの連携

三側面の各取組において、関連のある市民団体、企業、大学、NPO 団体、NGO 団体、市民と協働で取組み、連携し、相乗効果を高めることで、新たな展開につながり、鯖江版 SDGs ロールモデルとして国内外に発信することが期待される。

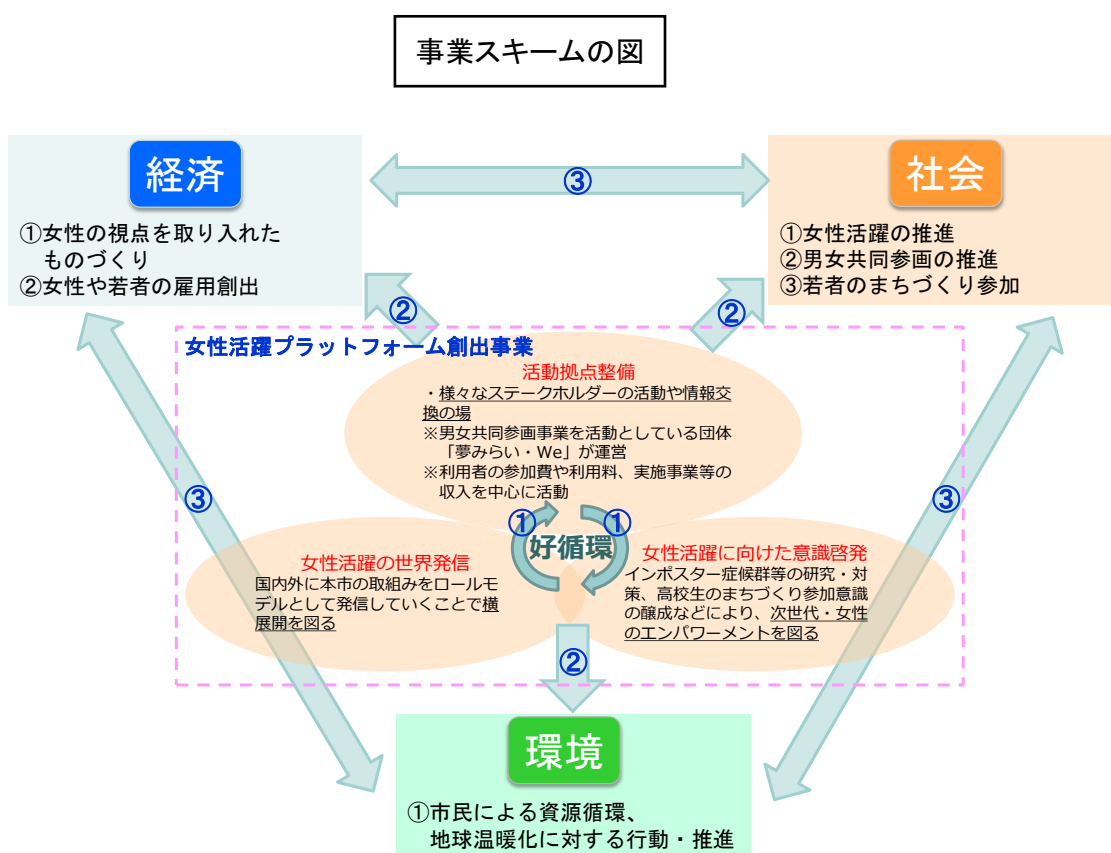
団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
夢みらい・We	男女共同参画事業の実施、調査
鯖江市役所 JK 課	若者のまちづくり参画、若者への SDGs 啓発
鯖江市 OC 課	女性のリーダー創出のため女性会議開催
さばえ男女共同参画ネットワーク	SDGs の啓発・実施
(特活)さばえ NPO サポート	SDGs の啓発・実施(まちづくりの視点から)
(特活)エコプラザさばえ	環境市民の育成、環境教育の実施
ふくいユネスコ協会	SDGs の啓発・実施(子どもの視点から)
(特活)国連の友 Asia-Pacific	SDGs 推進における助言、連携
国際協力機構北陸センター (JICA 北陸)	国際協力に関する助言・協力
(一社)福井県眼鏡協会	働きやすい環境づくり、SDGs 推進・啓発
越前漆器協同組合青年部	働きやすい環境づくり、SDGs 推進・啓発
(公社)鯖江青年会議所	働きやすい環境づくり、SDGs 推進・啓発
鯖江商工会議所	働きやすい環境づくり、SDGs 推進・啓発
(株)福井銀行	SDGs 推進・啓発
福井テレビジョン放送(株)	SDGs 推進・啓発
(株)福井新聞社	SDGs 推進・啓発
三井住友海上火災保険(株)	中小企業に対する SDGs 支援
独立行政法人中小企業基盤整備機構	中小企業に対する SDGs 支援
津田塾大学	女性活躍に関する助言・連携
慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科	持続可能な素材「LIMEX」(ライメックス)製品のアップサイクル開発
京都大学大学院	女性活躍に関する研究

(5) 自律的好循環

(事業スキーム)

SDGs17の目標達成には「ジェンダー平等の実現」が礎になると考え、鯖江市の地域特性である女性活躍を中心に取組んでいくため、女性のエンパワーメントを生み出すための居場所と出番の創出や、障害となるインポスター症候群等の研究・対策・改善状況の公表に取り組む。

また、様々なステークホルダーの活動や情報交換を支援し、それらのステークホルダーをつなげるプラットフォームとして位置付けた活動拠点を設け、キーステーションとなって、国内外に向け横展開する。



(将来的な自走に向けた取組)

SDGsの目標達成には、中長期的に多様なステークホルダーがつながり、行動できることが重要であるため、独自に継続的に活動できる場が必要と考える。そこで、女性活躍推進、男女共同参画事業の拠点施設を改修し、様々な市民団体や企業、学校がSDGs事業に取り組むため、自由に使用できる、活動拠点とする。この市有施設は、指定管理者として、男女共同参画事業を活動としている団体「夢みらい・We」が運営しており、利用者の参加費や利用料、実施事業等からの収入を中心に活動していく。

また、本モデル事業を拠点施設から国内外にロールモデルとして発信していくことで横

展開を図り、多様なステークホルダーと新たな事業展開も生み出していく。

(6)普及展開策

鯖江市の自治体 SDGs モデル事業は、SDGs の目標達成は女性の活躍なくしてあり得ないとの考えのもと、女性活躍の推進を軸として経済・社会・環境の3分野にバランスよく取り組むものである。女性のエンパワーメントを生み出すことで、SDGs の取組みに関わるステークホルダーのエンパワーメントを生み出すことにつながり、SDGs に資する個々の事業はもとより、事業間や三側面間の相乗効果を生み出すことが期待できる。多くの自治体において、女性の活躍推進が共通の課題となっている現状において、本モデル事業は全ての自治体において普及展開が可能であることはいうまでもなく、積極的に取り組むことが求められると考える。

また、子どもからお年寄りまでの参加がある「吹奏楽フェスティバル」や、鯖江市の基幹産業である眼鏡の企業が主体となって開催する「めがねフェス」、環境に特化し、企業や市民が参加する「さばえ環境フェア」、ものづくりのまちならではの工房開放イベント「RENEW」が、SDGs という世界共通の目標によってつながった市民や市民団体、企業、学校、行政の連携により開催されるため、訪れる自治体関係者の参考になると思われる。さらに、県内外に発信力のあるイベントであるので、広く周知できるほか、アンケートの実施により普及展開に向けた課題の把握も可能である。

その他、「鯖江市役所JK課」プロデュースする全国高校生まちづくりサミットに参加し互いに刺激を受けた高校生による地元での新たな取組みが期待できるほか、国連での鯖江市の取組紹介は PR 効果が高く、国内外から多くの関心を集めることになる。また、国連でも取り上げられているインポスター症候群(※解説 12)についての研究、対策、改善状況の公表を行うことで、その効果を認めた自治体や企業による横展開が期待できる。

<事業例>

- ・全国高校生まちづくりサミットの開催
- ・女性が輝くまち鯖江世界発信事業(国連での鯖江市の取組紹介)
- ・女性“活躍満足度”意識調査、啓発(インポスター症候群の見える化)

【解説】

※12 インポスター症候群




能力があることを示す外的な証拠があるにもかかわらず、自分は詐欺師であり、成功に値しないという考えを持つこと。この症候群は、特に社会的に成功した女性に多いとする研究もある。

(7) スケジュール

	取組名	2019 年度							2020 年度	2021 年度
		9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
統合	1. 国連の友 TALSE 女性委員会に関するトークセッション開催	→							→	→
		計画、実施 (11/28～)							計画、実施 (10 月)	計画、実施 (10 月)
	2. 全国 OC サミット	→							→	→
		計画、協議、実施 (2/15)							計画・実施 (12 月)	計画、実施 (12 月)
	3. 国際女性デー連動事業(キャンペーンアイテム制作、「わたしの日プロジェクト」関連イベント、男性のワーク・ライフバランス研修)	→							→	→
		計画、協議、実施 (3/8)							計画・実施 (3 月)	計画・実施 (3 月)
	4. 全国高校生まちづくりサミット	→							→	→
	実行委員会設置、協議、実施 (11/8～10)							参加	参加	
5. SDGs 推進国連レポート番組	→							→	→	
	各イベント、取組を随時レポート (~3 月)							国連での発表	国連での発表	
6. アップサイクルセミナーの開催	→							→	→	
	計画、協議、実施 (10/12～14)							活用	活用	
7. SDGs 推進特集記事での発信	→							→	→	
	協議、掲載 (2 月～)							掲載	掲載	

<p>統合</p>	<p>8.SDGs女性活躍推進活動支援 9.市民活動での意識啓発、研修 10.活動拠点整備</p>		
<p>経済</p>	<p>1. サテライトオフィス誘致事業 2. 成長分野技術確立・販路開拓事業 3. 越前ものづくりの里事業 4.「めがねのまち鯖江」元気再生事業 5.シェアリングシティさばえ推進事業 6.特産物ブランド化事業 7.クリエイティブ教育都市事業</p>		

社会	1.提案型市民役事業			
	2.学生との連携事業			
	3.SDGsプラットフォーム事業			
	4.SDGs教育推進事業			
	5.女性が輝くまち世界発信事業			
	6.男女共同参画プラン			
	7.輝く女性のヘルスケア事業			
	8.女性が働きやすい環境づくり応援事業			
	9.選べるワークスタイル推進事業			
	10.ふるさと教育推進事業			
	11.地域公共交通の再編事業			
環境	1.持続可能なアップサイクル素材活用推進事業			
	2.さばえエコ農業支援			

	<p>対策事業</p> <p>3.COOL CHOICE & SDGs普及啓発事業</p> <p>4.こどもエコクラブ活動 支援事業</p> <p>5.空き家再生等推進事 業</p>			
--	---	--	---	---

自治体名 S D G s 未来都市計画

令和元年8月 第一版 策定